

2015年8月16日川越教会

平和の原点

～アジアで生きる日本人として～

加藤 享

[聖書] テモテへの手紙Ⅰ 1章15～17節

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

[序] 人間の罪深さ

70年前の8月6日と9日に、米軍爆撃機から人類史上初の**原子爆弾二発**が**広島・長崎**に投下され、悲惨な被害を受けました。そして日本は遂に**8月15日正午**、天皇の放送によって連合国に対しポツダム宣言の受諾（無条件降伏）を表明し、やっと**15年戦争が敗戦・終了**となりました。

戦争による死者は日本人**310万人**、アジア諸国で総計**2100万人以上**とされています。残虐悲惨な戦争をもう二度としてはならないと誰しもが思ったはずですが、でも世界の各地では、銃が火を噴き続け、殺し合いがやみません。

戦後70年間に起こった戦争で最も死者を多く出したのは、南北に分断されたベトナムの間で行われた**ベトナム戦争**でしょう。アメリカと中国との代理戦争だとも言われました。1960年から15年間続き、死者・行方不明者の総計が**800万人**とされています。

この時アメリカ軍が大量の**枯葉剤**を空中から農村地帯に散布しました。その結果**ダイオキシンによる障害**で、今なお苦しんでいる**大勢の被害者**が生じました。その方々に、リハビリの施設や住居（仁愛の家）を寄贈する運動が、川越の平松さんを中心に続けられています。五十嵐桂子さんも先日二度目のベトナム訪問をして来られました。

どうして私たちは、戦争をやめられないのでしょうか。**人間の罪深さ**を痛感させられます。日本を絶対戦争をしない国にしていきたいものです。祈りを深

め、意思表示して行かねばなりません。

[1] シンガポールで学んだこと

私たち夫婦が、**シンガポール**の在住日本人への伝道のために派遣されることになったのは、当時のシンガポールバプテスト連盟総主事だった **John Chang 牧師のお母さん**の和解の祈りによります。お母さんは自分が心血を注いで築いてきた南洋女学校を、日本軍によって接収され、その上養子にした John の生みの父親まで殺されました。その**怒りと憎しみ**は老年になっても消えませんでした。そこで牧師になった John がとうとう言いました。「お母さん、日本人をなぜいつまでも赦せないのですか。お母さんの信仰はどうしたのですか？」

お母さんは顔色を変えて部屋に閉じこもり、一週間出てきませんでした。「私は間違っていた。神さまにお詫びしました。赦します。シンガポールにいる日本人の救いのために、宣教師を送ってくれるように頼んでおくれ」こうして Chan 先生の強い要請から、札幌教会に50年と思っていた私たち夫婦が召されて、**1995年5月12日**にシンガポールに赴任したのでした。

その年の8月15日の朝、英字新聞を手にした私は、目にとびこんできた第一面の大きな活字に、心が凍りついてしまいました。「アジアが日本から聞きたい言葉はただ一つ“**Apologize**”（謝罪する）なのに、日本人はどうしてそれが言えないのか。」そして次の言葉です。「**天皇裕仁が責任をとらなかった**のだから、今の政治家・指導者たちが責任をとろうとしないのも当然だろう」

確かに天皇は白馬にまたがる軍服姿の大元帥陛下であり、自分の名前で**戦争開始を宣言**したのです。そして310万人の国民を死なせ、アジア諸国の大勢の人々を死なせました。しかし降伏しても天皇はその重大な責任をとって**切腹**しませんでした。**辞任**さえもしませんでした。日本人も**天皇の責任を追及**しませんでした。しかしアジアの人たちは、「**おかしい**」と見ていたのですね。

戦争責任についての私たち日本人とアジアの人々とのこの**認識のズレ**を、戦後50年の節目にはっきりと**突きつけられた**のです。私は新聞を手にしながらか、日本の侵略戦争で肉親を殺された大勢のアジア諸国の人々の**怒り・悲しみ・痛み**が、未だに**癒されていない現実**を示されて、深い衝撃に襲われました。

（日本ではこの日に、村山首相の深いお詫びをこめた談話が発表されました。それがシンガポールに届いていたなら新聞の論調も少しは変わっていたでしょう。残念でした）

2年後の**1997年8月9日**午前屋内スタジアムでクリスチャンの**一万人祈禱集会**が行われました。**イギリスの教会の代表**が、植民地支配を続けたイギリス人の傲慢さを、壇上にひれ伏してお詫びしました。日本の憲兵隊によって電気ショックの拷問を繰り返し受けた**チョイ夫人**が、「心では赦せたが、55年たった今でも体が反応して、電気のスイッチをさわれません」と静かに証されました。

日本の教会代表が涙を流し身を低くしてお詫びをしました。**シンガポールの牧師**が彼に手をおいて祈りました。司会者が日本人は起立するようと言いました。私たちがそこそこに起立すると、**皆で日本人のために祈ろう**という言葉で、周りの**若い人たちが**私たち夫婦をかこんで手を置いて祈ってくれました。**逃げ出したくなりました**。涙がとめどなく流れて、本当に辛い時でした。

夕方友人から電話がありました。感想を聞かれて「辛くて逃げ出したかった」と申しましたら、「私たちにとっても**辛い集会**だった。でもこれで**癒され**、心の整理ができました。この一回で十分です。**新しい歩み**を始めます」と言って下さいました。十字架の赦しをいただいているクリスチャンでも、**これが現実なのです**。私たちはよくよく心に留めていなければなりません。

皆が平和に暮らしていた美しい国シンガポールにも、突然日本軍が攻め込んで来て、**4万人**は下らないと言われる大勢の中国系市民を**虐殺**し、死体を海に流し、地に埋めてその罪を隠そうとしたのでした。戦後の開発工事中に沢山の遺骨が地中から出て来て、虐殺が明るみに出され、**排日運動**が全市に湧き上がりました。その時日本政府は、**お詫び**として経済援助1億ドルと、町の中心地に白い平和記念塔（殉難市民記念碑）を建てる資金を提供しました。

更に**戦後52年**経ち、クリスチャンたちが大祈禱集会を開いて、**日本を赦す心の区切り**をつけて下ったのです。そしてその翌年から**2月15日**シンガポールが占領された**記念日**に、平和記念塔の前で行われてきている**慰霊祭**に日本人も参加出来るようになったのでした。

[2] 原爆の図を通して

先日も東松山の**丸木美術館**に行って**原爆の図**の前にしばらくただずんで来ました。丸木さんは実家のある広島が新型爆弾で大変な被害にあったと聞き、すぐに駆けつけ、すさまじい廃墟と悲惨な被害者の有様を目の当たりにしました。1ヶ月後、神奈川に帰ると脳裏に焼きついた**地獄のような光景**を、絵描きとして画き残さなければと思い、夫婦共同制作で連作の絵を画きました。

そしてそれが人類初めての**原子爆弾**によると分かった時、**原爆の図**として仕上げて、国内ばかりでなく**世界各地**でも展覧会を開いて、原爆の恐ろしさと平和の大切さを訴えたのでした。**アメリカ**でのことです。「原爆のおかげで日本は早く降伏した。そして大勢の人の命が死なずに済んだのだ」「自分の息子は捕虜になり、戦争が終る直前に広島で殺された」「中国人の画家が日本にやって来て、南京虐殺の絵の展覧会を開いたら、あんた方はどんな気持ちがするか」等と言われました。

日本に帰ってきて調べてみると、広島師団司令部の地下室に監禁されていた**23人のアメリカ空軍の捕虜**が、8月6日の数日後に日本軍将校に命令された市民たちによって、竹槍で突き殺されていきました。また中国各地では日本兵が市民を無数に虐殺していたことも、分かってきました。**南京**では**20万人**余が殺されたと言われています。そういえば**在日朝鮮人の死体**だけが何時までも広島の河原に野積みになって、からすの餌食になっていた有様も、思い出されました。

丸木夫妻は「**どうしてこんなにひどいことをしたのだ**」という**一方的な怨み**が、自分たちの心の底にあったことに気付かされ「目からうるこの落ちる思いがした」と語っています。そして「**23人の外国人捕虜の図**」「**からす**」「**南京**」「**水俣**」「**沖縄**」と新しい連作の絵を、次々と生み出していったのでした。

東京で**アジアの婦人平和会議**が開かれた時、各国代表たちがこの丸木美術館を訪れました。丸木俊さんが一枚一枚の絵を説明しながら、「**私たちは何という恐ろしいことをしてしまったのでしょうか**。これらは私たちのしたことの、ほんの一部なのです。ごめんなさい。**本当にごめんなさい**」を繰り返しました。

「**からす**」の絵の前で**韓国代表の婦人**が突然、俊さんに抱きついて声を上げて泣き出しました。「日本人の中にこのような絵を画いてくれる人が一人でもいる限り、私たちは日本人と手を組んで、平和のために労することが出来ます」

この様子をじっと見ていた**マレーシア代表の婦人**が、涙を流しながら俊さんに手を差しのべました。彼女は会議の間中も人を寄せ付けない**冷たさ**を漂わせていた人です。「私も今、私を長い間縛りつけていた**怨みから、解き放たれました**。有難うございます」彼女は新婚間もない夫を、日本兵の拷問によって廃人にされていたのでした。

「**私たちは何という恐ろしいことをしてしまったのでしょうか**」これは原爆を投下したアメリカ人の言うべき言葉ではないでしょうか。でも大勢の人を殺した**戦争を始めたのは私たち**なのです。丸木さんは原爆の凶を通して世界の人々と出会い、「どうしてこんなにひどいことをしたのか」という怨みが、「**本当にごめんなさい**」に変えられていったのです。そしてその心が、多くの人の**怨みと憎しみを溶かして、和解を生み出していった**のです。

「**いつまで謝り続けるのか**」とよく言われます。自分が犯してしまった罪を心に刻みつけて、二度と繰り返さない決意を持ち続けて生きる人から、**和解と信頼**が生まれ、人と人々が**真の友情**で結ばれていくのではないのでしょうか。

[結] 信仰者の原点

使徒**パウロ**は熱心なユダヤ教徒でした。キリスト教徒迫害の急先鋒として弟子たちを脅迫し、家々に押し入って男女を問わず縛り上げ、牢にぶち込みました。その彼がシリアのダマスコに乗り込んで行く途中で、復活されたイエス・キリストに出会って、**劇的な回心**をしました。そして今度は熱烈な福音伝道者として、その生涯をささげました。

当然彼は、裏切り者としてユダヤ教徒から迫害され続けました。キリスト教の仲間からも非難を浴びました。しかし彼は**謙遜の限りを尽くして**福音を宣べ伝え、教会に仕えました。彼が信仰者として生涯立ち続けた**原点**はどこか？それが今日の聖書の言葉です。

『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です」(テモテ I 1:15)。

罪人の中の最たる者——英語では **The worst** と訳されています。しかも原語は現在形なのです。全世界への福音宣教の働きで一番活躍したパウロですが、彼は罪人のなかでも **I am the worst** という自覚を持ち続けて、生涯を通したのです。

主イエスは最後の晩餐の食卓で、**弟子たちの汚れた足**を洗って下さいました。足を洗うのは**最も卑しい奴隷の仕事**です。「主であり師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」(ヨハネ 13:14) 弟子たちは最後まで、誰が**一番偉くなる**か競い合う心をもっていたのです。

パウロが**生涯立ち続けた原点**は、自分の犯した**大きな罪の自覚**と、十字架の主イエスの**無条件の赦し**でした。ですから主イエスにならい、謙遜の限りを尽くして**足を洗う僕**に徹して生きたのでした。私たちは日本で生活しています。この国日本がアジアの国々に対して犯した侵略戦争の大きな罪を、**いつまでも心にしっかり留めて**、アジアの中で生きて参りましょう。

イエス・キリストは、この世で**一番重い罪を犯した者の受ける十字架の死**を、私たちに代わって受けて下さったのです。私たちはその十字架をいつも見上げています。私たちは**アジアの友の足を洗いつつ**、福音を証して参りましょう。

私たち夫婦は今月の下旬にシンガポールに行ってきます。武士道に憧れて、剣道を習うシンガポールの若者たちが私に言いました。「**威張る日本人は嫌い**です」皆さん、私たちは心のどこかに**優越感**を抱いていませんか。十字架を見上げつつ、**アジアの友の足を洗い続ける日本人**になっていきましょう。

祈ります：神さま、戦後 70 年が過ぎました。私たちの国が平和憲法を持つことによって、周辺の国を敵として戦うことをせずに過ごせたことを感謝します。私はシンガポールに 10 年暮すことで、私たち日本人がアジアの人々に与えた大きな苦痛の深さの一端に触れことが出来ました。深い悲しみと怒りが人の心をどれほど長く苦しめるものであるかを知り、戦争の罪深さへの恐れを深めることが出来ました。感謝します。日本を絶対戦争しない国にしていくために、祈りを深め、意志表示していく者にしてください。パウロの言葉「わたしは、その罪人の中で最たる者です」を、私自身の心からの告白とすることが出来ますように。そして謙遜になってアジアの足を洗う者に徹することが出来ますように、お導き下さい。このような罪深い者を救って下さるために十字架にかかってくださった救い主イエスさまの御名によってお祈りします。アーメン